

市政エココース

環境都市「豊岡エコバレー」のシンボル「山宮地場ソーラー」が竣工



▲発電開始ボタンを押す市長(左)と中貝市長(右)

再生可能エネルギーの地産地消とエネルギー利用の多様化を促進するために整備していた第1期大規模太陽光発電事業「豊岡エコバレー」山宮地場ソーラー」が完成し、12月16日、日高町山宮で竣工式を挙行了しました。

セレモニーでは、株式会社カネカ代表取締役社長 菅原公一さんと中貝市長が発電開始ボタンを押し、太陽光発電が本格的にスタートしました。また、地元の山宮区の皆さんが餅つきを行い、式典終了後にぜんざいにして振る舞っていただきました。午後には、市民見学会を開



▲にぎわう市民見学会

催し、多くの見学者でにぎわいました。見学会では、通常入ることのできない発電所内に入って、高さ3メートルの特設展望台から、5922枚の太陽光パネルを見ることができました。

今後は、発電所内に入って見学することはできませんが、隣接するPR館で発電状況などを見ることが出来ます。第1期事業の想定年間発電量は一般家庭約2000軒分、売電収入は20年間で5億2千万円を見込んでいます。市では、引き続き、第2期大規模太陽光発電事業を進めます。

災害時における燃料等の優先供給等に関する協定を兵庫石油商業組合但馬支部豊岡市ブロックと締結

12月25日、兵庫石油商業組合但馬支部豊岡市ブロック(会員23社)と市が、災害時における燃料等の優先供給等に関する協定を締結しました。東日本大震災を契機として、災害時などに市が実施する災害対策業務に用いる車両や機器等、避難所や庁舎などの施設への燃料供給、市が指定する場所への燃料搬送、さらには他の市町村への応援などに係る燃料等の供給について、可能な範囲で市へ優先的に供給することに定めています。

市役所で行われた調印式には、ブロック長の榎本博光さんをはじめ、兵庫石油商業組合但馬支部長の小谷一弘さんなど4人が出席。中貝市長と榎本ブロック長が協定書に調印しました。



▲協定書を交わす中貝市長(中央)と榎本さん(左から2人目)ほか組合員の皆さん

個々の災害対応能力を高めるために

市民防災学習会開催

市民に気象・災害情報等に関する基礎知識の習得や災害時の具体的な行動などを体系的に身に付けてもらうため、昨年度に引き続き、市民向け防災学習会を全4回実施します。

12月15日、第1回市民防災学習会を、神戸海洋気象台水害対策気象官の赤松光夫さん

と政策研究大学院大学特任教授 池谷 浩さんを講師に迎え、じばさん但馬で開催しました。

今後、第2回市民防災学習会を1月27日に、第3回は2月17日、第4回は3月2日に予定しています。全4回受講した方には、「講座修了証」を交付します。

主な市政の動き

12月

- 14日・韓国の大学生等環境学習で来訪
- 15日・市民防災学習会(1月27日、2月17日、3月2日)
- 16日・豊岡エコバレー・山宮地場ソーラー(第1期事業)竣工式、市民見学会
- 25日・災害時の燃料等優先供給等の協定を兵庫石油商業組合但馬支部豊岡市ブロックと締結
- 28日・市役所仕事納め式
- 3日・コウノトリ文化館新春特別開館(4日)
- 4日・市役所仕事始め式
- 6日・豊岡市賀詞交換会
- 8日・豊岡市各消防団出初式(豊岡・城崎・竹野・但東、13日・出石)
- 8日・NOMOベースボールクラブ事務所開き
- 12日・豊岡市消防本部消防出初式
- 13日・豊岡市成人式

豊岡市環境経済認定事業を共同支援

豊岡市環境経済インキュベーションパートナーシップ設立

市は、環境経済事業（環境を良くする事業活動で利益が生まれるもの）をさらに推進するため、平成24年11月から環境経済事業の認定を開始しました。

市内の金融機関、豊岡商工会議所、豊岡市商工会、および市は、環境経済認定事業を重点的に支援するため、「豊岡市環境経済インキュベーションパートナーシップ（※注）」

を設立することを決め、1月10日に設立総会が開催されました。

この組織では、環境経済事業認定を受けた企業と構成団体が定期的に集まり、①現状・将来像・課題等の情報共有②分析、助言③事業計画、支援策の検討を行います。

※注 インキュベーションパートナーシップ：事業立ち上がり期の共同支援組織



▲豊岡市環境経済インキュベーションパートナーシップ設立総会の様子

福島の被災地から新潟県三条市に避難している皆さんに

「お正月産品」の贈り物を発送

新潟県三条市には、東日本大震災で被災された福島県南相馬市などの方が数多くおられ、今なお避難生活を余儀なくされています。

正月産品」として、応援メッセージ入りDVDを同封し、12月25日に発送しました（ヤマト運輸(株)が特別料金で配送協力）。

市は、昨年に引き続き、三条市で暮らす被災者の皆さんに対して「豊岡から応援する心」を届けることにし、市内事業者に協力を依頼したところ、下記の産品を提供していただきました。



▲送った「お正月産品」

三条市の協力で、27日に被災家庭に届きました。

《「お正月産品」の贈り物 各90セット》

産 品	提供者等
大根	豊岡市土地改良協議会
白菜	
菊菜	
ホウレンソウ	
キャベツ	(株)Teams
餅（1キロ入り）	
ニンジン	二方蒲鉾(株)
かまぼこ(鴻のりの翔)	
ちくわ(城崎ちくわ)	豊岡市購入
干支の置物	
ラスク(10枚入り)	

中貝市長の徒然日記 63

子どもの館

市役所の新庁舎は、今年7月末に完成します。議会はそれまで、アイティ・豊岡市民プラザのホールで開催されます。

議会というのは、ときに議員と当局が激高して、怒鳴り合いのような議論をすることがあります。私もたまに、いえ時々言い過ぎて、後で問題部分を会議録から削除するよう議長に願ひ出たりします。

市民プラザには、ホールのほかに子育て総合センターもあります。ここには小学生未満なら保護者同伴で誰でも自由に使えるフロアがあります。

アイティの駐車場と7階を管理する会社（市が大株主が破綻寸前になった時、7階フロアを市が買い取って、現在の市民プラザにしました。会社は黒字経営になりました）。

さて、議論でカッカした議員や市長は、休憩に入って議場の扉を開けて外に出ると、子どもたちが元気に走り回る姿を目にします。その瞬間、

大魔神（分かりますか？）のような顔は、見る見る仏様のような顔に変わります。自分の孫の姿でも見つけた日には、それはもう生チョコにでもなったように溶けてしまいます。

新庁舎建設中の暫定措置とはいえ、この配置は絶妙でした。とげだった心を丸くするだけではありません。私たちが一体誰のために働いているのか、それを直感的に感じ取ることが出来ます。

合併して職員が減り、議員の姿が消え閑散とした旧町役場に、図書館の分館や子育てセンターを整備したときも、同じような効果を目の当たりにしました。子どもたちの声が響き渡る庁舎。

新庁舎は、前庭が芝生広場になります。以前は、本庁舎2階にあった市長室から外を見ると、駐車場でした。そこで、車には新庁舎裏側に回ってもらうことにしました。

晴れた日、広場を子どもたちが駆け回り、歓声が響き渡る。職員は自答しながら仕事を続ける。私たちは、一体誰のために働いているのだ？